

2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	雪荷重小委員会	主 査 名：苦米地 司 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 荷重運営委員会	委員長名：和田 章 主 査 名：神田 順
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・現行「建築物荷重指針・同解説」の「雪荷重」について解説文の改定作業を行う。 ・建築基準法の改正による各行政庁指定の設計用積雪深値の収集および諸外国の設計用積雪荷重評価法の最近動向を調査する。 ・WGの成果を指針に反映させる。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：あり 幹事：高橋徹(千葉大) 委員：城 攻(北海道大) 桜井修次(北海学園大) 中村勉(岩手大) 三橋博三(東北大) 和泉正哲(清水建設) 岡田恒(建築研究所) 小坂橋裕一(日建設計) 前田博司(福井工大) 三橋博巳(日本大) 小竹達也(大成建設) 中島肇(清水建設) 老川進(清水建設技術研究所)	
設置 WG (WG 名：目的)	制御積雪荷重WG：指針で導入した建築物の屋根上積雪を積極的に制御して重量低減を行う場合に対応した積雪荷重を適正に評価する方法を検討する。 屋根形状係数WG：荷重指針で用いる屋根形状による積雪分布の差異を特定するために、降雪風洞実験による屋根形状係数の評価方法を確立する。	
2005 年度予算	300,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 屋根上積雪の予測手法(2005 年度雪氷研究週間 in 旭川において、雪工学会と共同開催) 参加者数 50 名
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 「屋根上積雪の予測手法」と題したシンポジウムにおいて、吹雪風洞実験に関して雪氷関係の研究者との議論が行われ、屋根形状係数 WG の主題である「吹雪風洞実験手法の標準化」の方向性が明らかになった
委員会活動の問題点・課題	